

JAPAN/ICOMOS INFORMATION

第2期 第9号

平成5年(1993年)10月30日発行

もくじ

◎1992年日本イコモス国内員会総会	
・報告事項	1
・審議事項	3
・別紙資料	5
◎1993年第一回理事会	
・報告事項	8
・審議事項	11
・別紙資料	12
◎坪井清足委員長よりイコモス会長ローランド・シルヴァ氏への礼状	17
◎ローランド・シルヴァ氏より坪井委員長への礼状	18
◎コロンボ大会参加者報告	
・坪井清足 「ICOMOS第10回総会」	20
・伊藤延男 「イコモス副会長当選の経緯について」	21
・上野邦一 「スリランカの遺跡保護」	23
・牛川喜幸 「イコモス・スリランカ総会に出席して」	24
・中村 一 「ギリシャの岩」	25
・西浦忠輝 「第10回スリランカ総会に参加して」	26
・西村幸夫 「イコモス第十回総会に出席して」	28
・益田兼房 「第10回イコモス・スリランカ総会の決議宣言」	29
・渡辺定夫 「スリランカ参り」	31
◎日本イコモス国内委員会 会員名簿	33

第2期 第9号

平成5年10月30日 発行

諸報告

◎1992年

日本イコモス国内委員会総会

日 時：1993年 2月 8日（月）午後6:30～8:30

場 所：学士会館（神田一つ橋）307号室

出席者：坪井清足委員長、稲垣栄三、伊藤延男、石井 昭、石澤良明、羽生修二、陣内秀信、益田兼房、渡辺保弘の各理事、大河直躬、川添智利、近藤公夫、斎藤英俊、田中 琢、前野 崑、矢野和之の各委員
出席者計16名 委任状提出者60名 委員総数は129名（1993年 2月8日現在）で、委任状を含む出席者は過半数を超え、総会は成立（担当：渡辺^{保弘}理事）。

議 事

I 報告事項

1) 1992年活動報告

a) 事業報告（担当：稲垣理事）

①92年 2月 第一回研究会開催（於：学士会館）

「ブルガリアの文化遺産の保存」 リュドミラ・マルコヴァ氏

②92年 7月 第二回研究会開催（於：東京アメリカン・センター）

「アメリカに於ける文化遺産の保存」 シェリリン・ワイデル氏

③92年10月 講演会（主催：文化庁・京都市 於：国立京都国際会館）

「世界の文化遺産保護の状況について」 ヘンリー・クリア氏

④92年10月 講演会（主催：文化庁・日本イコモス国内委員会 於：文部省
5階会議室）

「日本の文化財保護の印象について」 ヘンリー・クリア氏

⑤92年11月 シドニーに於けるICOMOS Advisory Committee（諮問委員会）に
坪井委員長の代理として前野 崑 委員出席

b) 広報報告（担当：益田理事）

①92年 2月 JAPAN ICOMOS INFORMATION第2期第7号を発行

- ②92年 4月 英文「世界遺産条約の履行のための作業指針」の日本語翻訳を文化庁に提出（文化庁委託業務）
- ③92年 8月 JAPAN ICOMOS INFORMATION第2期第8号を発行
同時発送：「世界遺産条約の履行のための作業指針」
「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」

c) 庶務報告（担当：渡辺^{保弘}理事）

- ①92年 1月 第一回理事会開催（於：学士会館）
- ②92年 2月 1991年イコモス国内委員会総会開催（於：学士会館）
- ③92年 3月 第一回コロombo大会実行委員会開催（於：文化財工学研究所）
- ④92年 4月 第二回コロombo大会実行委員会開催（ ” ” ）
- ⑤92年 4月 1992年分会費納入案内発送
- ⑥92年 5月 パリ本部へ1992年分会費（129名分）送金
- ⑦92年 6月 第二回理事会開催（於：学士会館）
- ⑧92年11月 第三回理事会開催（於：学士会館）
- ⑨92年12月 1992年分会費納入案内（第二回目）発送

2) 会員推移状況（担当：渡辺^{保弘}理事）

1991年の会員数123名、1992年入会者6名にて総会時の会員数は129名
入会：1991年総会承認に基ずく1992年入会の新規会員は以下の6名。

佐々波秀彦氏	国連地域開発センター所長
重枝 豊氏	日本大学工学部建築学科研究生
日高健一郎氏	筑波大学芸術学系助教授
前野 崑氏	東京芸術大学美術学部建築学科教授
宮川 朝一氏	住宅都市整備公団都市開発部事業管理課参事
宗田 好史氏	国連地域開発センター研究員

3) 会費納入状況（担当：石井理事・渡辺^{保弘}理事）

1993年1月30日現在の会費納入状況は（別紙Ⅰ）の通り。

4) 会計報告（担当：渡辺^{保弘}理事）

1993年2月8日現在、一般会計残高2,347,893円、基金合計12,550,000円
詳細は（別紙Ⅱ）のとおりで、承認された。

5) 会計監査報告（担当：大河直躬委員）

監事未定のため大河直躬委員が代理で監査、承認報告。

II 審議事項

1) 退会及び入会の件 (担当: 渡辺^{保弘}理事)

①入会申込者: 1名 () 内は推薦者

アンドレ・アンシェイ・グルシェフスキー氏

京都大学防災研究所研究員 (金田 潔委員・宗田好史委員)

同氏の入会が承認された。

②退会申し込み者 (1992年一杯で退会を希望)

岩下敏也氏 元文化財保存協議会参与

沢村 仁氏 元九州芸術工科大学教授

両氏の退会が承認された。

③会員数: 今総会時点での会員数は 129名、

なお、総会終了後に下記1名の方のご逝去があったため、今回添付の会員名簿の会員数は 126名。

土田直鎮氏 (国立歴史民族博物館館長) ご逝去

2) 国際イコモス総会 (於コロンボ) に対する活動計画の件 (担当: 稲垣理事)

①国際イコモス総会 (以下「コロンボ大会」) のおり、日本イコモス国内委員会に割り当てられた発表、(7月31日9:30~10:00 「Presentation of the Heritage of Asia」) は西村幸夫理事が担当する。この発表については東京在住の有志の方々の協力が望まれる。

②イコモス総会において伊藤延男理事が副会長に立候補するため、その投票のためには最低4名がコロンボ大会に出席することが必要であるが、すでに坪井委員長、及び伊藤延男、西村幸夫の両理事が予定されている。当国内委員会では、基金の利息674,524円を参加者人数で割り、それぞれに費用の補助を行う。

③アジアの途上国からのコロンボ大会参加者の参加費用の一部を当国内委員会で援助することはすでに決定しているが、この援助の方法や金額については、スリランカ・イコモスの意向をそのまま受け入れて援助することは好ましくない。従って、スリランカ・イコモスに再度問い合わせをし、日本の援助が明確にされるような形での協力が望ましい、という結論を得た。

④③のコロンボ大会参加者への援助のため、特別の募金を日本国内委員会で行う。1口1万円。会員各位の協力が期待される。

3) ICOMOS本部発行の NEWS LETTERの国内委員会編集の件

昨年11月の Advisory Committee (於シドニー) の席上、日本は一回限り編集を引き受けることを申し出たが、この NEWS LETTER の発行に関して、当国内委員会とパリ本部との間に意見の食い違いが見られる。本部からの要請によると編集は本部でなされ、それにかかる費用と原稿の一部のみを日本

で引き受けてほしいとのことであった。それについては坪井委員長と稲垣栄三副委員長に交渉を一任することとし、同時に費用の詳細を知らせるよう本部と交渉する。

4) 「イコモス木造文化財保存特別国際委員会」日本開催について

1994年3月に日本国内で開催される予定である「イコモス木造文化財特別国際委員会」(木の委員会)を、日本国内委員会も支援することが決定した。

5) US/ICOMOSからの交換研修生制度の要請について

US/ICOMOSより交換研修生制度を検討されたいとの要請が日本国内委員会にあった。US/ICOMOSの提案する12週間にも及ぶ研修生の受入れおよび宿舎の提供と交通費の支給は今の所不可能である。しかしこのような制度を実現することは、文化・環境の違いによって生じている修復に関する考え方の相違を欧米諸国に理解してもらう良い機会であるので、今後前向きに検討していきたい。また、個別に受入れ可能な組織があれば、当国内委員会が窓口になって研修生を招聘することを考えたい。

6) 予算計画について

1993年の予算計画については、(別紙Ⅲ)のように渡辺^{保弘}担当理事より説明があり、承認された。

以上

	名誉会員数	会 員 数	納入者数	未納者数	(免除)
1979年分		20	20	0	0
80年分		20	20	0	0
81年分		34	34	0	0
82年分		34	33	0	1
83年分		34	33	0	1
84年分		33	33	0	0
85年分		46	46	0	0
86年分		47	46	1	0
87年分	4	42	40	1	1
88年分	4	41	39	1	1
89年分	4	93	88	5	0
90年分	4	119	113	6	0
91年分	3	121	105	16	0
92年分	3	126	91	35	0
93年分前納	・	・・・	6	・・	・

以上の通り報告致します。

1993年 2月 8日

会計担当・石井 昭
渡辺保弘

繰越金

普通預金(口座1)繰越	348,569 円	
普通預金(口座2)繰越	1,093,200 円	
合計		1,441,769 円

収入

1988年会費	10,000円×1名=10,000 円	
1989年会費	10,000円×1名=10,000 円	
1990年会費	10,000円×5名=50,000 円	
1991年会費	10,000円×21名=210,000 円	
1992年会費	10,000円×91名=910,000 円	
1993年会費	10,000円×6名=60,000 円	
定期預金(基金)利息(口座1受入)	674,524 円	
普通預金(口座1)利息	3,301 円	
普通預金(口座2)利息	9,194 円	
文化庁委託業務費	414,600 円	
合計		2,351,619 円

支出

ICOMOS本部へ1992年会費129名分	289,831 円	
1991年総会会場費	17,037 円	
理事会会場費他(2回)	8,755 円	
研究会会場費(2回)	33,829 円	
広報担当事務経費	195,235 円	
国際会議出席航空券	176,000 円	
" 諸経費	69,035 円	
銀行振込手数料	2,060 円	
同時通訳費用(第2回研究会)	49,490 円	
翻訳料(世界遺産条約履行のための作業指針)	393,252 円	
世界遺産パンフレット(ユネスコより)	24,500 円	
会員証ネーム打ち	29,231 円	
会計・庶務担当事務費	157,340 円	
合計		1,445,495 円

残高

普通預金(口座1)	1,026,394 円	
普通預金(口座2)	1,321,499 円	
合計		2,347,893 円

基金

イコモス研究振興基金	12,550,000 円	12,550,000 円
------------	--------------	--------------

以上の通り報告致します。

1993年 2月 8日

会計担当・石井 昭
渡辺保弘

1992年繰越金	普通預金(口座1)繰越		1,026,394 円
	普通預金(口座2)繰越		1,321,499 円
収入	会費 1993年分	1,190,000 円	
	未納分徴収	650,000 円	
	利息 定期預金(基金)	500,000 円	
	普通預金	10,000 円	
	募金	1,000,000 円	
	合計		5,697,893 円
支出	会費 ICOMOS本部宛	300,000 円	
	総会会場費	20,000 円	
	理事会会場費	20,000 円	
	研究会会場費	30,000 円	
	広報担当経費	300,000 円	
	会計・庶務担当経費	240,000 円	
	コロンボ大会実行委員会活動経費	100,000 円	
	コロンボ大会参加者渡航援助費	650,000 円	
	コロンボ大会援助費	2,000,000 円	
	ICOMOS本部新 News Letter出版経費	1,000,000 円	
	合計		4,560,000 円
残高	(普通預金)繰越金+収入-支出		1,137,893 円

活動計画(概略)

総会開催	1回
理事会開催	5回
研究会開催	5回
インフォメーション発行	3回

◎1993年第1回理事会

日 時： 1993年（平成5年）9月10日（金）午後6時半～9時
会 場： 神田学士会館・306号室
出席者： 坪井清足委員長・稲垣栄三副委員長・伊藤延男・西村幸夫・
渡辺保弘の各理事

議 事

I 報告事項

1) 第10回国際イコモス総会関係活動報告

第10回国際イコモス総会はスリランカのコロンボにおいて1993年7月30日から8月7日までの9日間に亘って開催された。この総会はアジアで初めて開かれるイコモスの総会であるため、アジア・オセアニア諸国に焦点をあてた発表セッションが総会の中心に据えられるなど、スリランカ・イコモスの総会主催に向けての気概はもとよりの事、同じアジア諸国の一員としての日本イコモスもアジアの途上国からの参加者への参加援助を行った。総会の様子については参加された各委員からの報告（20ページより）を参照されたい。

①参加者

坪井清足委員長・牛川喜幸副委員長・伊藤延男・西村幸夫・益田兼房の各理事
事・上野邦一・中村 一・西浦忠輝・渡辺定夫・の各委員

②発表者及び発表題目

西村幸夫理事 「日本の文化財保護の現状について」
西浦忠輝委員 「遺跡の保存・修復とそのため国際協力に関する調査・研究」
中村 一委員 「文化財遺構整備に関する研究」

③アジア諸国の参加者参加費援助募金について

委員各位にご協力いただいた参加費援助募金は総額 990,000円（別紙 I 参照）
国内委員会より皆様に深甚なる謝意を申し述べます。

④アジア諸国の参加者参加費援助の内訳

スリランカ・イコモスとの援助額・人選の度重なる折衝には石井理事がこれに当り、国内員会より総額 1,657,000円を参加援助費としてスリランカ・イコモスを通じて11名の参加者（パキスタン3名、インド3名、中華人民共和国1名、ベトナム社会主義共和国1名、タイ1名、ネパール2名、）に支給。（別紙 II-a～c 参照）

⑤国内員会より総会参加者への渡航費援助について

総会に参加した伊藤延男・西村幸夫・益田兼房の各理事及び上野邦一・中村 一・西浦忠輝・渡辺定夫の各委員に各々 105,000円、総額 735,000円を（坪井清足委員長・牛川喜幸副委員長は辞退）支給。

⑥総会参加者報告

坪井委員長より総会の概要報告、西村理事より発表セッションでの報告、伊藤理事より本部役員改選選挙結果の報告があった。なお、この役員改選で伊藤理事は副委員長に立候補し、当選された。

⑦文化財保護振興財団よりの助成金について

財)文化財保護振興財団(理事長・石川六郎 住所:東京都中央区日本橋2-28-3中里ビル8階)より本総会に参加し、発表を担当された西村幸夫理事・中村 一委員・西浦忠輝委員の3名に渡航及び宿泊に対する助成金が交付された。1名につき 470,000円、計 1,410,000円。

2) 会計中間報告

1993年 9月 8日現在の一般会計残高 1,334,238 円、基金 12,550,000 円
詳細は(別紙Ⅲ)の通り

3) 「イコモス木造文化財保存特別国際委員会」関係報告

伊藤理事より1994年に開催予定の「イコモス木造文化財保存特別国際委員会」(「木の委員会」)について以下の報告があった。

①目的

a) 事業目的

木造文化財建造物に関する国際的な専門家を招聘し、木造文化財保存をテーマとしたシンポジウムを開催し、日本が明治以来現在までの文化財修復から得た独自の技術と学術的成果に対する認識を全世界に広め、木造文化財建造物修復の理念を確立し、今後の文化財修理を通じた国際貢献を円滑化する。

b) 会議の目的

- 1) 日本建築の代表作である法隆寺、姫路城等の他、京都府・奈良県下の文化財建造物修理現場を視察するとともに、シンポジウムを開いて意見の交換をはかる。
- 2) 日本の建築文化伝承の特異な実例である伊勢神宮を見学し、日本文化に深い理解を得させる。
- 3) 以上の成果をふまえて委員会を開き、世界中に共通する木造文化財修復の理念等について討議し、1996年開催のイコモス総会に報告する資料とする。

②概要

時期：平成6年3月7日（月）～同12日（土）
場所：視察場所 法隆寺、姫路城等の国宝建造物
シンポジウム開催場所は未定
参加者：イコモス木造文化財保存委員会委員12名
（他一般参加者を含め計30名）
収支予算額：2,707,000円
助成希望額：2,707,000円

③会議の日程（案）

1994年 3月 7日（月）	伊勢神宮見学 外宮、内宮、垣内参拝、神楽奉納 歓迎会（主催者・日本イコモス国内委員会(予定)）
” 8日（火）	法隆寺、東大寺、興福寺等見学、修復現場見学
” 9日（水）	京都市内見学（世界遺産推薦地区、書院・数寄屋造 り建築） 歓迎晩餐会（主催者・京都市）
” 10日（木）	午前 京都市内修理現場見学 午後 神戸市 竹中大工道具館見学
” 11日（金）	午前 姫路城見学 午後 シンポジウム 歓迎晩餐会（主催者・姫路市長）
” 12日（土）	午前 木の委員会 閉会

④参加予定者

イコモス木造文化財保存特別国際委員会 委員12名（同夫人3名）
一般参加者 外国から5名 日本国内から10名他 計30名

⑤東京倶楽部宛助成金申請について

この事業には総額 2,707,000円の経費出費が見込まれる。
現在、社団法人東京倶楽部に助成金の交付を申請中。

4) イコモス国際委員会発行 News Letterの出版援助について

坪井委員長より、懸案であった News Letter の出版援助の内容が報告された。来年の1994年出版分の内の1号分の編集費、約100万円を日本国内委員会が負担（詳細な金額については後日パリ本部事務局より通知がある）。日本から原稿を寄稿。広告も受け付けるとのこと。原稿執筆は坪井委員長が担当。日本の名所旧跡という特徴的古文化遺産のあり方について言及される予定。

Ⅱ 審議事項

1) 「イコモス木造文化財保存特別国際委員会」国内視察およびシンポジウム運営について

「イコモス木造文化財保存特別国際委員会」（通称「木の委員会」）国内視察及びシンポジウムの運営は、「木の委員会」の会員である伊藤延男理事及び村上裕道委員が基本的にこれに当たり、必要時に随時国内委員会事務局が応援する。

2) 監事役員の件について

現在空席となっている監事について飯田喜四郎委員と吉川需委員に依頼する案が坪井委員長・稲垣副委員長・伊藤理事より提出され、了承を得た。

以 上

(別紙 I)

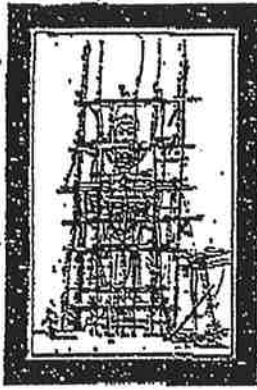
「イコモス第10回総会

アジア諸国の人々の出席費援助募金」報告

(募金期間 4/15 ~9/1 1口10,000円 順不同・敬称略)

10口	坪井清足・伊藤延男	以上2名
5口	佐原 真	以上1名
3口	矢野和之・稲垣栄三・渡辺保弘	以上3名
2口	関野 克・前野 崑・田中 琢・吉村作治・小寺武久 中村昌生・工藤圭章・渡辺保忠・鈴木嘉吉・金関 恕 牛川喜幸・加藤晋平・狩野 久・半澤重信・石井 昭 岡田英男	以上16名
1口	M. ペーレント・日塔和彦・川嶋一男・藤本 強 中村 一・岡田保良・関口欣也・賀古唯義・陣内秀信 李 正夫・村松貞次郎・内田祥哉・吉川 需・福本都治 森 宣勝・三浦定俊・上野一邦・片桐正夫・稲葉和也 山本雅治・田村 明・吉田 靖・飯田喜四郎・渡辺定夫 小林達雄・猪熊兼勝・田畑貞寿・田村晃一・田辺征夫 石澤良昭・西村幸夫・河原純之・渡辺勝彦	以上33名

◎応募人数 55名 募金総数 99口 990,000円



ICOMOS 10th General Assembly Colombo 1993

ICOMOS SRI LANKA

Conventions Secretariat, 130, Glennie Street, Colombo 2.

Tel: 94-1-421370/421101-10 Fax: 94-1-449659

Telex: 21389 KEELLS CE

25 July 1993

Professor Akira Ishii,
Treasurer of Japan ICOMOS,

FAX 81 3 3420 6473/81 3 3200 9423

Dear Prof. Akira Ishii,

Thank you for your fax of 23 July 1993, I am giving below the breakdown of the way in which we have allocated the very generous grant that Japan ICOMOS has given us in support of invitees from Asia and Oceania for the Symposium on the *Heritage of Asia and Oceania*.

As you would see the reason for our being unable to support persons from the smaller countries of Asia, who are not members of ICOMOS, is due to the fact that the invitees from the Maldives (Dr. Ahmed Lutfi), Cambodia (Dr. Pich Thean), Nepal, Bangladesh, Malaysia, Indonesia and the Philippines were not able to come or had already found at least partial funding from other sources. We also made every effort to find and invite speakers from Korea, Laos, Bhutan, Brunei and Burma, but were unsuccessful.

Although we were not very successful in some of these efforts, ICOMOS Sri Lanka has been able to play a fundamental role in bringing a very large part of Asia into ICOMOS. Pakistan, Thailand, Indonesia and the Philippines joined ICOMOS within the course of 1993, while you will be very glad to know that China made a formal application to join ICOMOS last morning.

The Symposium on the *Heritage of Asia and Oceania* and the book that is being published in connection with this symposium, will be the first time that ICOMOS is having a meeting and a publication of considerable scientific and intellectual importance on Asia and Oceania.

We are indeed grateful to Japan ICOMOS for the very generous support that you have extended to us, and we hope that the following account of the way the Japan ICOMOS grant has been allocated has the concurrence of your National Committee. The breakdown of

- 1) the list of invited persons
- 2) the minute of distributed subsidies

is as follows:

A. PARTICIPANTS FUNDED BY JAPAN ICOMOS

	All costs in	US \$
Dr. Rafique Mughal - Pakistan	A	650
8 nights @ 75	H	600
(6 days lunch)		30
	N	<u>200</u>
		<u>1,480</u>
Prof. Fareed Khan - Pakistan	A	925
8 nights @ 75	H	600
(6 days lunch)		30
	N	<u>200</u>
		<u>1,755</u>
Architect Yasmeen Lari - Pakistan	A	530
8 nights @ 75	H	600
(6 days lunch)		30
	N	<u>200</u>
		<u>1,360</u>
Dr. M. K. Dhavalikar - India	A	310
8 nights @ 75	H	600
(6 days lunch)		30
	N	<u>200</u>
		<u>1,140</u>
Architect Romi Khosla - India	A	390
10 nights @ 75	H	750
(8 days lunch) ..		40
	N	<u>200</u>
		<u>1,380</u>

(別紙 II -c)

		US \$
Dr. Nagaraja Rao - India	A	250
8 nights @ 75	H	600
(6 days lunch)		30
	N	<u>200</u>
		<u>1,080</u>
Dr. Chang Qing - China	A	850
9 nights @ 75	H	675
(7 days lunch)		35
	N	<u>200</u>
		<u>1,760</u>
Dr. Truong Quoc Binh - Vietnam	A	850
9 nights @ 75	H	675
(7 days lunch)		35
	N	<u>200</u>
		<u>1,760</u>
Professor Vailibhotama - Thailand	A	565
7 nights @ 75	H	675
(5 days lunch)		25
	N	<u>200</u>
		<u>1,465</u>
Dr. Shaphalya Amatya - Nepal	A	**
7 nights @ 75	H	525
(5 days lunch)		25
	N	<u>200</u>
		<u>750</u>
Dr. Karna Sakya - Nepal	A	**
7 nights @ 75	H	525
(5 days lunch)		25
	N	<u>200</u>
		<u>750</u>

SUB TOTAL = 14,680

繰越金

普通預金(口座1)	1,026,394 円
普通預金(口座2)	1,321,499 円
小計	2,347,893 円

収 入

会費収入	570,000 円
(91年 5名50,000・92年 9名 90,000・93年分42名420,00・94年 1名10,000)	
普通預金利息	4,562 円
募 金	990,000 円
預り金(文化財保護振興財団助成金)	1,410,000 円
寄 付	300,000 円
小計	3,274,562 円

収入合計 5,622,455 円

支 出

パリ本部への送金(93年分)	312,784 円
大会援助費(15,000USドル)	1,657,000 円
預り金(文化財保護新興財団助成金)	
470,000円×3名分	1,410,000 円
大会参加者渡航援助費(105,000×7名)	735,000 円
上記振込料	4,738 円
事務局費(通信・印刷・事務用品他)	168,695 円

支出合計 4,288,217 円

残 高

普通預金(口座1)	28,011 円
普通預金(口座2)	1,264,922 円
郵便口座	10,000 円
現 金	31,305 円

残高合計 1,334,238 円

基 金

イコモス研究振興基金	12,550,000 円	12,550,000. 円
------------	--------------	---------------

1993年 8月17日

ローランド・シルヴァ イコモス会長殿

イコモスの会長に再選されたことを心からお祝い申し上げます。また、第10回のイコモス総会を盛大に且つ秩序立って立派になしとげられましたことに厚くお礼申し上げます。さらに、この事業に協力された貴国国内委員会のバンダラナヤケ氏以下の皆様にもこころから感謝の意を表明いたします。

我々日本国の参加者一同は、大会終了後のナショナル・ツアーで各地の遺跡を見学し、その遺跡の立派なことおよびその保存に貴国の会員諸氏が献身的に活動しておられることを拝見し、大きな感銘を受けました。ただ Anuradhapura の Jatavana Ramaya 大塔の修理現場を拝見したときに日本の参加者全員が、この大塔の修理には幾多の技術上の問題点があり、これについては早急に C.C. のメンバーである伊藤延男博士の意見を取りいれ、貴殿が是非協力的な指導力を発揮して万全を期して完全な修理の実現をしていただければ、ということになりました。

大会に際して大変大きな成果を得られたことを御祝申し上げ、深く感謝の意を表します。

日本イコモス国内委員会
委員長 坪井清足

*事務局注：上記の手紙を英訳の上、シルヴァ氏に送付いたしました。

ICOMOS

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
 CONSEIL INTERNATIONAL DES MONUMENTS ET DES SITES
 CONSEJO INTERNACIONAL DE MONUMENTOS Y SITIOS
 МЕЖДУНАРОДНЫЙ СОВЕТ ПО ВОПРОСАМ ПАМЯТНИКОВ И ДОСТОПРИМЕЧАТЕЛЬНЫХ МЕСТ

September 29, 1993.

Kiyotari Tuboi Esqr.,
 President, ICOMOS
 C/o. Bunkazai-Kogaku Kenkyujo
 3-9-5-113 Okubo Shumjuku
 Tokyo 169, Japan.
 Fax: 03-3200-9423

Dear President Kiyotari Tuboi,

Thank you for your letter of 17.8.93. We are sorry that we could not respond to this earlier.

The 10th General Assembly was, indeed, a success consequent to the committed participants on this occasion. The seriousness with which these senior scholars attended the occasion was, indeed, the hallmark of this event. We thank you for the participation and your recognition of success to which you contributed so generously.

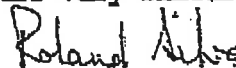
We are most grateful to the Japanese National Committee for the fine support and generous contribution to the work of the 10th General Assembly. Without your help, the 10th General Assembly would not have been the success that it has proved to be. We are particularly happy that Asia and Oceania have opened their doors to ICOMOS in a big way and we have in Asia and Oceania a fine representation of senior members in the Executive Committee to guide the destinies of ICOMOS International.

We are most grateful to you for your observations regarding the great stupa Jetavanaramaya, Anuradhapura. Dr.N.Ito has been our guide and philosopher in these matters of the UNESCO/Sri Lanka Project of the Cultural Triangle. We will follow your advice and recommendations in continuing to have his support throughout. We have in him and his predecessor, Prof.Shihara, two advisers of high international reputation and we are very lucky to be so privileged.

Thank you again for your congratulations and we look forward to a most fruitful three years of collaborative work when we all can meet again with added success to the ideals of ICOMOS.

With warm personal regards,

Yours very sincerely,



Dr. Roland Silva
 President, ICOMOS
 Fax: 94-1-500731

*事務局注：上記の手紙の日本語訳を次ページに添付いたしました。

1993年9月29日

日本イコモス国内委員会
委員長 坪井清足 先生

坪井先生

8月17日付けのお便り拝見しました。お返事が遅れましたことをおわび申し上げます。

第10回の総会にご出席の皆様のご満足のいくものであったと思っています。ことに先生初め経験豊かな学者の皆様方のご参加によって、今回の大会はひととき価値あるものとなりました。先生方のご参加と、惜しみないご協力によってこの大会を成功に導いてくださったことに対して心からお礼申し上げます。

今回の総会のために日本イコモス国内委員会が果たしてくださった大きなご支援とご寄付にたいして我々は心からの感謝を述べさせていただきます。このような協力なしに、今回の大会の成功を考えることは不可能です。この援助によってアジアとオセアニアに門戸が開かれたこと、またそれらの地域から参加された経験豊かな方々が執行委員の中に加えられ、今後のイコモスの国際的役割を共に担う事は非常に意義あることと思われます。

また、日本の皆様がアヌラダプラのジャタバナ・ラマヤの供養塔を見学して下さりお礼を申し上げます。ことに伊藤先生からこの件に関してユネスコとスリランカの共同プロジェクトへの良きアドバイスがいただける事を喜び、今後先生のご指導を仰いで参ります。

これからの3年間に実りの豊かな共同作業がなされ、3年後の再会の折にはさらにイコモスの掲げる理想に近づくものとなるようにと願っています。

イコモス会長
ローランド・シルヴァ

I COMOS 第10回総会

日本イコモス国内員会委員長 坪井 清足

1993年7月30日から8月4日にわたってイコモス第10回総会がスリランカのコロombo市のバンダラナイケ記念国際会議場で行われた。これに先立って7月27日からプレ総会がおこなわれ、その執行委員会に伊藤延男委員が出席され、国際科学委員会に西浦委員とIFLA（国際造園家連盟）の杉尾氏が参加された。30日に始まった総会には伊藤執行委員、坪井国内委員会委員長、同委員の中村 一、西村幸夫、牛川喜幸、上野邦一、益田兼房、西浦忠輝の諸氏及び杉尾氏が参加、渡辺定夫委員は8月2日から参加された。総会は午後4時 D.B.Wijetungaスリランカ大統領到着玄関前記念撮影、玄関ホール入り口の開会燈点火がおこなわれて始まった。会長挨拶にはじまり、大統領祝辞、英国の Sir Bernard Fielden氏にガゾーラ賞授与などが行われた。また、R.シルバ会長から坪井国内委員会委員長に日本の援助のあったことに対する謝辞があった。午後7時からスリランカの年代記が無言劇で上演され、8時からの Welcome Dinner で終了した。

第2日の31日は「アジア・オセアニアの文化財」のシンポジウムが行われ、Session Iで西村幸夫委員による「Historic Sites and Monument in Japan」、Session IIIの中村 一委員による「Prehistoric Background of Japanese Rock Gardens」（近藤公夫委員欠席のためピンチヒッターとして）の報告があり、両者とも好評であった。シンポジウム終了後、全員で国立博物館の見学が行われた。

8月1日から3日にかけて Archaeological Heritage Management, Cultural Tourism, Conservation Economics の三部会に分かれて発表と討議がおこなわれ、8月1日の午後には古都 Kandyで満月の夜におこなわれるペラヘラ祭の見学、8月3日午後は植民地時代の Galle Fort を見学した。

8月4日午前役員選挙があり、会長はスリランカの Roland Silva 氏が再選、副会長5名のうち、伊藤延男委員が55%の支持を得て4位で当選された。他の4名は、米国の CARROLL氏、オーストラリアの DOMICELJA氏、ドミニカの PRIETO 氏、ハンガリーの ROMAN氏である。Secretary General はベルギーの LUXEN氏、

Treasurer General はオランダの JESSURUN 氏、新執行委員12名が発表され、午後決議文の討論、決定（益田氏の報文参照）、1996年のブルガリア第11回総会への招待があり、閉会挨拶の中で、今回の総会に日本ほか各国の支援があったことが報告され、謝辞がのべられ閉会。

8月5日から7日は遺跡見学旅行で、日本からの参加者全員が第三班のバスツアーに参加、ダンブーラ遺跡、アヌラダプーラ遺跡を見学した。

今回の第10回総会にスリランカのシルバ会長をはじめバンダラナイケ大会委員長および関係者総動員で大会の運営につくされた熱意は大変なもので、あらためて敬意を表するものである。